

〈小学校 ICT活用〉

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る 学習指導の工夫

ーフラッシュ型動画作成を通してー



浦添市立宮城小学校

崎原 修

目 次

I	テーマ設定理由	23
II	目指す子ども像	23
III	研究の目標	23
IV	研究仮説	24
1	基本仮説	24
2	作業仮説	24
V	研究構想図	24
VI	研究内容	25
1	フラッシュ型教材の研究	25
2	ドリル学習について	26
3	フラッシュ型動画の作成	26
4	学習指導の中でのフラッシュ型動画の活用の研究	29
VII	授業実践	34
1	教材名	34
2	教材の目標	34
3	教材の評価基準	34
4	この教材でおさえる指導事項	34
5	教材について	34
6	指導計画	35
7	本時の指導	36
VIII	研究の考察	39
1	作業仮説(1)の検証	39
2	作業仮説(2)の検証	41
3	作業仮説(3)の検証	42
IX	研究の成果と課題	44
1	成果	44
2	課題	44
	おわりに	44
	主な参考・引用文献	44

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習指導の工夫

－ フラッシュ型動画作成を通して －

浦添市立宮城小学校 崎原 修

【要 約】

本研究は、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることをめざし、フラッシュ型動画作成とそれを活用した継続的実践を行い、その有効性を確かめる研究である。

キーワード □基礎的・基本的な知識・技能の定着 □フラッシュ型動画活用

I テーマ設定理由

改正教育基本法をふまえた学習指導要領が今年度からはじまり、各学校で新しい実践が進められている。「生きる力」という理念のもと確かな学力の確立のため「基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成、学習を支える力の育成」（平成22年度 学力向上主要施策 「夢・にぬふあ星プラン II」）が重要である。しかし、実際の授業では計算の指導に時間がかかって思考力・判断力・表現力等の育成に時間をかけることができないことが多い。それを克服するには、ドリル学習を効率的に行う必要がある。そのうえにたって思考力・判断力・表現力等の育成を行うべきだと考える。

これまでの経験から、毎日5分程度の「漢字の読み・書き・計算」のドリル学習が基礎的・基本的な知識・技能の習得にとって重要であることは誰もが知っていることである。しかし、実際に実践すると、プリント学習では児童の学習意欲を高めることができなくて継続できなかつたり、学校でその方法が統一されてなかつたり、個々の教師によって方法が違って思うように成果を上げることができなかつた。

そこで、昨年度、6学年の先生方と共同で毎日継続できるドリル学習の取り組みを行った。朝の学習、または国語・算数・社会の授業開始の5分間を、大型テレビでの動画を活用した基礎・基本の学習の時間とした。国語の時間は漢字10問テス

トの動画を作成し毎日授業の冒頭で行った。教材が共通利用できる形となっていたため、継続して実施することができ、結果として5年生の時よりも漢字が得意になったと感じるようになった児童が増えた。算数の時間は5分間計算を毎日続けた。さらに、算数の各単元の重要事項をフラッシュカード化することによって基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られたと考える。

もちろん、パソコンや電子黒板の方が活用範囲が広いと考えられる。しかし、パソコンは起動に時間がかかる、電子黒板は値段が高くて全教室に整備できない、機械に苦手な教師は気軽に取組めないなどの欠点がある。それに対し、フラッシュ型動画を作成し、USBやDVDビデオに保存しておけば、授業の中で誰でも簡単に活用することができる。その利便性を生かしてどこでも活用できる素材として役立てたいと考える。

以上、昨年度の成果を生かして、今年度第3学年の国語科・算数科において、フラッシュ型動画（漢字ドリル・計算ドリル）を作成し、継続的に活用すれば、児童の興味・関心を高め、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す子ども像

基礎的・基本的な知識・技能の定着した子

III 研究の目標

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、

フラッシュ型動画活用が有効かどうかを検証し、学習指導の工夫を研究する。

2 作業仮説

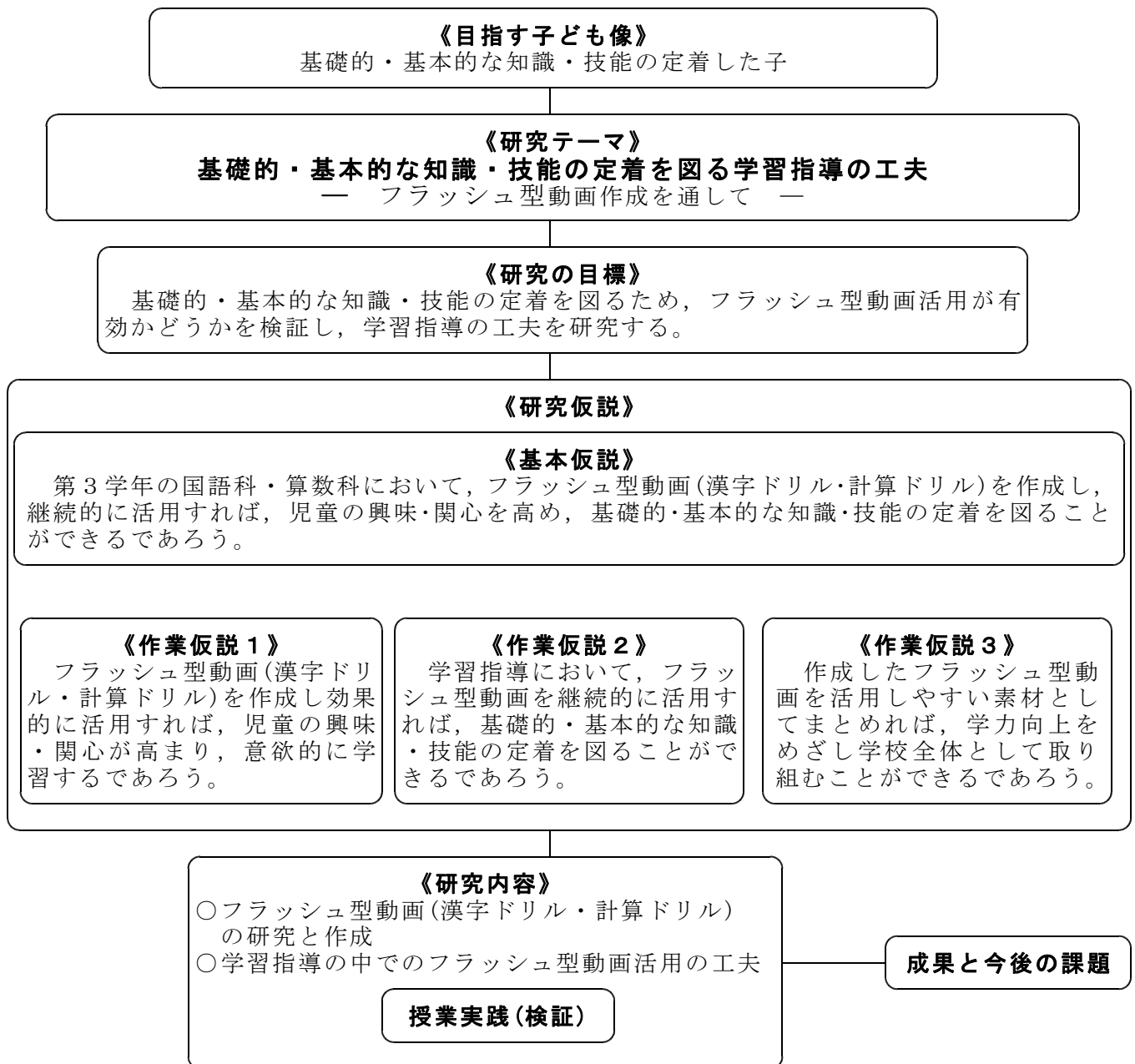
- (1) フラッシュ型動画(漢字ドリル・計算ドリル)を作成し効果的に活用すれば、児童の興味・関心が高まり、意欲的に学習するであろう。
- (2) 学習指導において、フラッシュ型動画を継続的に活用すれば、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるであろう。
- (3) 作成したフラッシュ型動画を活用しやすい素材としてまとめれば、学力向上をめざし学校全体として取り組むことができるであろう。

IV 研究仮説

1 基本仮説

第3学年の国語科・算数科において、フラッシュ型動画(漢字ドリル・計算ドリル)を作成し、継続的に活用すれば、児童の興味・関心を高め、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 フラッシュ型教材の研究

(1) フラッシュ型教材とは

「フラッシュ型教材とは、『フラッシュカードのように、課題を瞬時に次々と提示するデジタル教材のこと』です。」(高田純, 堀田龍也『フラッシュ型教材のススメ』6ページ, 旺文社)。今まで、紙に書いて活用していたフラッシュカードに, ICT のよさ, 手軽さ, 便利さが加わった教材である。文部科学省の「教育の情報化に関する手引」にも ICT を用いたフラッシュ型教材等を活用することで, 児童が集中して取り組むことができ, 効率的に知識を定着させることができる」と述べられている。各教室への大型テレビの導入もあって, これから活用方法が研究される分野である。

(2) フラッシュ型教材のよさ

漢字学習におけるフラッシュ型教材を活用する場合には, 授業のはじめにクラス全員で漢字の読みを声を出し画面を見ているので, 学級全体が集中した態勢になる。短い時間で次々表示される問題に即答する緊張感があるので, 子どもは集中して取り組む。また, 視覚に訴えることによって学習意欲を高めやすいということや, 出題方法や解答方法に変化をつけやすいので, 毎日飽きずに取り組ませることができる。従って, 毎日取り組むドリル学習への活用が可能である。

短い時間での活用が有効である。授業の初めや終わりの数分間だけ行うので, あきずに継続して取り組むことができる。15分程度の朝の学習などでも取り組むことができる。教科の中で, しっかり覚えさせたい内容を繰り返し練習させられるので便利である。また, 全員で一斉音読をする方法の場合は, 子どもたちの実態把握をすることができる。さらに, みんなが大きな声を出

しているので, 間違っても気にせずに参加することができる。集団の力をかりて, 続けているうちに, 自然に正しく読むことができるようになってくる。

フラッシュ型教材は, パワーポイントを使って簡単に作ることができる。他の教師が作った教材をそのまま使うこともできる上, 手直して使うこともできるので, 自分のクラスの子どもに合った問題を独自に, 短時間で作ることができる。なおフラッシュ型教材ダウンロードサイト「eTeachers」で提供されている教材をダウンロードしてそのまま使ったり, 市販のものを利用したりする方法もある。

(3) 学習指導の工夫とフラッシュ型教材

明確な発問や指示で, 学習活動を明確化・効率化することができる。フラッシュ型教材には, 教師の発問や指示がスライドに入っている。「漢字を読みましょう」「数字を読みましょう」というように短くてわかりやすい。そのため, すぐに考えたり, 読んだりする活動に入ることができる。「学習活動の明確化と効率化」を図ることができるのである。

授業にリズムとテンポが生まれる。画面には似た問題が次々と出されるのですぐに答えられる。そこに一定のリズムが生まれる。また, 同じスライドを2度, 3度と繰り返すことでテンポもアップする。簡単な問題から徐々に難しい問題に変化させることで学習内容のレベルアップを図ることができる。

授業構成が豊かになる。授業開始から全員が一斉音読したりするので子どもたちが集中した状態になる。フラッシュ型教材では, 落ち着いた雰囲気導入時でも, テンポよく声を出しているうちに子どもたちは集中していく。さらに, 「前時の復習」や「本時へのつなぎ」といった役割も果たす。また, まとめ段階での活用も可能である。

子どもたちの学習意欲を喚起する。フラッシュ型教材では子どもたちが「わかった」「できた」

という実感を持ち、子どもたちの学習意欲を高める。だれでも継続して学習すれば「わかる」「できる」という実感がもて、学習意欲の向上につながるものである。この部分を今回の研究内容として重視したい。

(4) フラッシュ型教材のタイプ

- ① 読むもの(書かれている文字を読みながら理解するタイプ)
- ② 名称を答えるもの(写真や図、記号の名前を答えるタイプ)
- ③ 二択で答えるもの(選択肢を2つ用意して、右か左で答えさせたり、当てはまる方の数や言葉を答えたりするタイプ)
- ④ ○か×で答えるもの(提示された内容が発問の内容に該当するかどうかを○か×で答えるタイプ)
- ⑤ 穴埋め形式のもの(□で隠された部分の数や言葉を答えたり、隠された部分を補って読みながら答えたりする。)

(5) フラッシュ型動画について

フラッシュ型動画とは、フラッシュ型教材を動画化し自動的に再生できるようにしたものである。いろいろな学習効果をもたらすフラッシュ型教材ではあるが、わずかながら欠点もある。1つは、パワーポイントを利用した教材のため、パソコンが苦手な人や、その環境が整っていないと活用ができないということである。もう1つは、クリックする必要があるため、活動中教師がゆとりを持つことができない。このような欠点を克服することができるのがフラッシュ型動画だと考える。

準備する素材は、パソコン用動画形式 WMV ファイル(パソコンや AVEL LINK などのメディアプレーヤーでも USB フラッシュメモリーで活用可能)、そして DVD-VIDEO (DVD プレイヤー用)を作成しておけば、パソコンのない環境でも利用できる。そのため、学校全体での取り組みがしやすい。

2 ドリル学習について

「確かな学力・高い学力・豊かな学力を身に

つけるには、何よりも読む力・書く力・計算力という学力の基礎そのものを、小・中学生の九年間にしっかりとくり返してきたえていくことです。そして、読み・書き・計算の力を自分の体のように、自由自在に扱えるように血肉化していきましょう。それには、食事や洗顔、排便と同じく、基本的な生活習慣として毎日続けていくことです。」(岸本裕史 藤原義隆『新だれでもできる学力づくり』3 ページ、子どもの未来社)これまでの実践から、岸本氏のこの言葉が非常に重要だと実感している。子どもたちは、ある程度時間が経過してくると、学習した内容を忘れてしまう。その状態で次の高度な内容を指導しようとする、高学年にいくに従って学習内容を理解することが難しくなってくる。そこで、毎日のドリル学習が必要になってくる。

3 フラッシュ型動画の作成

今回、全学年分の漢字ドリルと第3学年の計算ドリルの作成を行う。

(1) 漢字ドリル動画

① 動画の作成方針

- ア 第1学年から第6学年の漢字ドリルを作成する。
- イ 5分程度で取り組める内容にする。
- ウ 教科書と市販のドリルを参考に学年の新出漢字すべてと下学年の漢字の復習ができるようにする。
- エ 覚えるという意識をもてるようにする。

② 動画の構成

(学年によって時間を調整する)

ア 漢字30問の音読(30秒程度)

全員で音読をする。はじめはふりがな付きの動画を活用する。(図1 音読)



図1 音読

イ 新出漢字の書き順，空書き用(30秒程度)
書き順アニメとともに，全員で空書きする。
(図2 書き順)

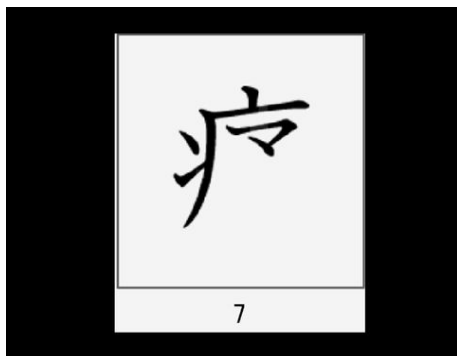


図2 書き順

ウ 漢字10問の記憶(1分程度)
漢字1問につき5秒程度集中して漢字を見て覚
える。(図3 記憶)



図3 記憶

エ 漢字10問のテスト(3分程度)
各自ノートの後ろのページから漢字ミニテスト
コーナーとし，しっかり丁寧に書く。
(図4 テスト)



図4 テスト

オ 漢字10問の解答(30秒程度)
各自画面の解答を見ながら，赤ペンで○付け
をして点数を付ける。(図5 解答)



図5 解答

(2) 計算ドリル動画

① 動画の作成方針

ア 第3学年の計算ドリルの作成及び年間指
導計画を作成する。(30ページ～31ページ
表1，2)

イ 5分程度で取り組める内容にする。

ウ 教科書と市販のドリルを参考に毎月の問
題の違う4パターンを1年分作成する。

エ 内容は，前月までの既習事項の計算やそ
の他習熟が必要と思われる計算とする。

オ 動画の中には，タイマーを表示する。

カ 個に応じた支援のためのヒントシートを
作成する。

② 動画の構成

ア 全12問を3画面に分けて表示する。最初
の1分間程度で問題の画面1が表示される。
(図6)各自ノートの後ろのページから計算
コーナーとし，児童は画面を見ながら計算
をノートに始める。

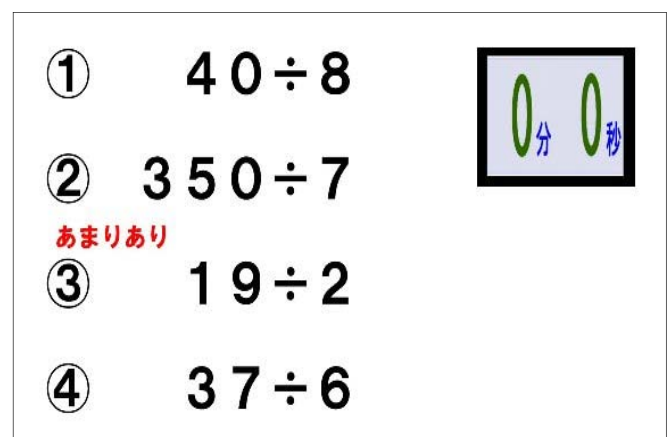


図6 計算ドリル動画画面1

イ 残りの4分間程度で問題の画面2・画面
3が表示される。児童は，画面2・画面3
の計算を開始する。(習熟が十分でない児童

のため前の問題も小さく表示するようにした。

(図7, 図8)

図7 計算ドリル動画画面2

図8 計算ドリル動画画面3

ウ 最後の1分間で解答が表示されるので、自分で○をつけさせる。(図9)

図9 計算ドリル動画画面4

エ 必要な児童はヒントシートを活用させる。

(図10)

オ 習熟度に対応するためドリル用紙も用意する。

(図11)

図10 ヒントシート

図11 計算ドリル用紙

(3) 暗記用動画

① 動画の作成方針

ア その単元に必要な重要語句等を、絵や写真とともに音読できるようにする。

イ 2分程度で取り組める内容にする。

ウ Level 1～2の段階に分けて、重要語句を徐々に覚えられるように作成する。

② 動画の構成

ア Level 1は絵や写真を見ながら画面の重要語句を全員で音読する。(図12)

表 1

平成23年度版「わくわく算数」3年 計算ドリル年間指導計画<上巻>

2学期制	大単元	配当時数	指導内容 【用語・記号】	計算ドリルファイル	計算内容	言語活動との関連	
4月(15)	1. 九九の表とかけ算	6	・乗数と積の関係 ・ $a \times 10$, $10 \times a$, $a \times 0$, $0 \times a$ のかけ算 ・乗法の交換法則	計算れんしゅう月 4	81+19 34+68 27+40 55+29 57+91 84+67 26+74 74-32 52-46 119-75 167-69 103-58 101-59 105-99		
	2. わり算	12	・除法の意味(等分除, 包含除)と答えの求め方 【÷, わり算】 ・0のわり算 ・わり算の問題づくり ・倍を求めるわり算 ・除法と加法・減法の複合問題 ・簡単な場合の(2位数)÷(1位数)=(2位数)の計算				
5月(16)	● どんな計算になるのかな	1	・乗除の演算決定問題	計算れんしゅう月 5	6×8 7×7 3×5 9÷3 16÷8 28÷4 54÷6 27÷3 28÷4 54÷6 27÷3 45÷9 90÷3 490÷7 720÷9 96÷3 77÷7 ひっ算 60+340 308+304 519-335 528-463		
	3. 円と球	7	・円の定義, 円の性質, 円の作図 【円, 中心, 半径】 ・直径と中心の関係 【直径】 ・コンパスの使い方 ・球の概念と性質 【球】				
	* ふく習	1	・既習内容の理解の確認と持続				
	● みんなで話しあいましょう	1	・話し合い活動の仕方				
6月(21)	◎ かくれた数はいくつ(1)	2	・乗法の逆思考, 除法の逆思考	計算れんしゅう月 6	8×3 7×7 9÷3 24÷6 18÷3 420÷7 630÷9 88÷2 63÷3 800+300 1100+900 ひっ算 368+174 567+236 763-298 520-127		
	* じゅんび運動	1	・次単元のレディネスチェック				
	4. たし算とひき算の筆算	12	・(何百)+(何百)=(千何百), (千何百)-(何百)=(何百)の計算 ・3桁の加法の筆算(和が3桁/和が4桁) ・3桁の減法の筆算(繰り下がり1回/繰り下がり2回) ・3桁の減法の筆算(2つ上の位から繰り下げる場合) ・(4桁)±(4桁)の簡単な筆算				
	● 買えますか? 買えませんか?	1	・見積りへの素地				
	* ふく習, じゅんび運動	1	・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック				
	5. 一億までの数	10	・一万をこえる数のしくみ, 命数法・記数法 【一万の位】 ・千万の位までの数のよみ方 【十万の位, 百万の位, 千万の位】 ・一億の位までのしくみ, 相対的な大きさ 【一億】 ・5桁の数の大小 【数直線】 ・相対的な大きさに基づく大きな数の加減計算 ・「10倍」「100倍」「10でわる」と位取り				
7月(17)	6. たし算とひき算	4	・2桁の加法・減法の暗算	計算れんしゅう月 7	8×6 7×9 12÷3 54÷6 12÷3 490÷7 64÷2 13000+7000 15000-9000 ひっ算 2673+3159 7513-3276 数字で 四万七千二百三十一 一万を5こ, 千を3こ あせせた数		
	● 算数の自由研究	1	・めい路づくり				
	60時間 (予備時数4時間)						
	* ふく習, じゅんび運動	1	・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック				
8~9月(15)	7. 時間と長さ	9	・時間, 時刻の求め方 ・秒の概念, 1分=60秒 【秒】 ・1mをこえる長さの測定 ・長さの普遍単位「キロメートル」の理解, 1km=1000m 【km, キロメートル】 ・巻尺の使い方 ・時間と長さの量感, 量感を用いた見積り	計算れんしゅう月 9	24÷8 35÷7 42÷6 280÷7 82÷2 7÷3 10÷3 22÷6 ひっ算 23×2 13×6 948+52 7453-64 数字で 四千五百八万三千七百九 千を3こ, 百万を7こ, 一万を5こ, 千を9こ あわせた数		
	じゅんび運動	1	・次単元のレディネスチェック				
	8. あまりのあるわり算	7	・余りのあるわり算の意味と式 【あまり, わり切れる, わり切れない】 ・余りと除数の大小関係 ・被除数, 除数, 商, 余りの関係と答えの確かめ ・余りの処理の問題				
10月(15)	◎ 何倍でしょう	2	・ $a \times b \times c$ と $a \times (b \times c)$ の具体的な場面と計算の仕方	計算れんしゅう月 10	48÷8 28÷7 420÷7 64÷2 あまりのあるわり算 16÷3 17÷2 22÷7 35÷8 55÷6		
	9. 計算のじゅんじよ	1	・結合法則, $a \times b \times c = a \times (b \times c)$				
	● よみとる算数(1)	1	・長文などのよみとり				
	◎ 間の数	1	・間の数に着目して解く問題				
★ 算数のまど	—	・補充(ステップ)と発展(ジャンプ) ・もっと学びをいかそう ・もっと練習					
前期(2学期制)の時数(標準時数: 89時間)			83時間 (予備時数6時間)				

表 2

平成23年度版「わくわく算数」3年 計算ドリル年間指導計画<下巻>

2学期制	大単元	配当時数	指導内容 【用語・記号】	計算ドリルファイル	計算内容	言語活動との関連	
10月 (15)	10. 三角形	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ストローやひごを使った三角形づくり ・三角形の分類と二等辺三角形、正三角形の定義 【二等辺三角形、正三角形】 ・コンパスを使った二等辺三角形や正三角形の作図 ・円や折り紙を使った二等辺三角形・正三角形づくり ・角の概念と大小比較 【角】 ・正三角形、二等辺三角形の敷き詰め 	計算れんしゅう 10月	<p>ひっ算</p> 12×6 $948 + 72$ $2360 - 978$ 数字で 四千五十八万三千七十九		
	11. 1けたをかけるかけ算の筆算	13	<ul style="list-style-type: none"> ・(何十)×(1位数)、(何百)×(1位数)の計算 ・(2位数)×(1位数)の筆算 ・(3位数)×(1位数)の筆算 ・簡単な(2位数)×(1位数)の暗算 	計算れんしゅう 11月	$40 \div 8$ $350 \div 7$ あまりのあるわり算 $19 \div 2$ $37 \div 6$ ひっ算 $848 + 83$ $3361 - 988$ 70×6 23×2 35×2 63×2 57×3 324×2 496×3		
11月 (20)	* ふく習	1	・既習内容の理解の確認と持続			$848 + 83$ $3361 - 988$ 70×6 23×2 35×2 63×2 57×3 324×2 496×3	
12月 (15)	12. 重さ	8	<ul style="list-style-type: none"> ・重さの概念、天秤による間接比較、任意単位による重さの測定 ・重さの普通単位「グラム」の理解、はかりによる重さの測定 【g、グラム】 ・重さの普通単位「キログラム」の理解、1kg=1000g、測定 【kg、キログラム】 ・1kgの量感、量感を用いた見積もり、はかりの選択と重さの見当づけ ・簡単な重さの加減計算 ・量の単位の関係、重さの普通単位「トン」の理解、1t=1000kg 【t、トン】 	計算れんしゅう 12月	$54 \div 9$ $86 \div 2$ あまりのあるわり算 $33 \div 5$ $46 \div 7$ ひっ算 $848 + 83$ $3361 - 988$ 300×7 20×4 46×2 80×6 64×8 720×3 986×7		
	13. 分数	10	<ul style="list-style-type: none"> ・はしたの大きさの表し方、分数の概念 【1/3、2/3、分数、分母、分子】 ・数としての分数の意味、単位分数のいくつ分という見方 ・分数の系列と大小、数直線上の分数 【等号、不等号】 ・同分母分数の加減計算 			$54 \div 9$ $86 \div 2$ あまりのあるわり算 $33 \div 5$ $46 \div 7$ ひっ算 $848 + 83$ $3361 - 988$ 300×7 20×4 46×2 80×6 64×8 720×3 986×7	
			62時間 (予備時数8時間)				
1月 (13)	◎ ベつべつに、いっしょに	3	<ul style="list-style-type: none"> ・$a \times c + b \times c$をいろいろに考えて解く問題 ・$(a+b) \times c$、$(a-b) \times c$をまとめて考えて解く問題 	計算れんしゅう 1月	$56 \div 7$ あまりのあるわり算 $17 \div 3$ ひっ算 $9332 + 7881$ $3533 - 493$ 200×5 89×6 812×4 538×6 分数 $4/9 + 4/9$ $3/8 + 5/8$ $4/5 - 1/5$ $6/7 - 4/7$		
	14. 計算のきまり	1	・分配法則、 $(a+b) \times c = a \times c + b \times c$			$56 \div 7$ あまりのあるわり算 $17 \div 3$ ひっ算 $9332 + 7881$ $3533 - 493$ 200×5 89×6 812×4 538×6 分数 $4/9 + 4/9$ $3/8 + 5/8$ $4/5 - 1/5$ $6/7 - 4/7$	
	* ふく習、じゅんび運動	1	・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック			$56 \div 7$ あまりのあるわり算 $17 \div 3$ ひっ算 $9332 + 7881$ $3533 - 493$ 200×5 89×6 812×4 538×6 分数 $4/9 + 4/9$ $3/8 + 5/8$ $4/5 - 1/5$ $6/7 - 4/7$	
2月 (18)	15. 表とグラフ	8	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の分類・整理、「(正)」の字で表し、表に整理する) ・棒グラフのよみ方 【ぼうグラフ】 ・棒グラフのかき方 ・簡単な2次元の表 ・2つの棒グラフの比較 	計算れんしゅう 2月	$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 500×5 72×9 432×5 378×3 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$		
	16. 小数	8	<ul style="list-style-type: none"> ・小数の概念と表し方 【0.1、小数、小数点、1/10の位、整数】 ・小数の系列、大小比較、相対的な見方 ・数直線などを使った小数と分数の大小比較 ・小数の加減計算(小数第1位) 			$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 500×5 72×9 432×5 378×3 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$	
	* ふく習、じゅんび運動	1	・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック			$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 500×5 72×9 432×5 378×3 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$	
	17. 2けたをかけるかけ算の筆算	6	<ul style="list-style-type: none"> ・何十をかける計算 ・(2位数)×(2位数)の筆算 ・(3位数)×(2位数)の筆算 ・コラム「昔の教科書」 			$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 500×5 72×9 432×5 378×3 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$	
● よみとる算数(2)	1	・表・グラフなどの資料のよみとり		$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 500×5 72×9 432×5 378×3 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$			
3月 (10)	◎ かくれた数はいくつ(2)	2	・ $\square - a - b = c$ 、 $a + b + \square = c$ の□を求める問題	計算れんしゅう 3月	$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$ 40×12 90×64 158×43 532×40		
	18. □を使った式	3	<ul style="list-style-type: none"> ・$\square + a = b$、$a - \square = b$の□を求める問題 ・$\square \times a = b$、$a \div \square = b$の□を求める問題 			$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$ 40×12 90×64 158×43 532×40	
	19. そろばん	3	・そろばんの仕組み、数の入れ方(おき方)とはらい方			$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$ 40×12 90×64 158×43 532×40	
	* もうすぐ4年生	2	・第3学年の総復習			$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$ 40×12 90×64 158×43 532×40	
★ 算数のまど	—	<ul style="list-style-type: none"> ・補充(ステップ)と発展(ジャンプ) ・もっと学びをいかそう ・もっと練習 		$32 \div 8$ あまりのあるわり算 $26 \div 8$ ひっ算 $2362 + 1891$ $2561 - 892$ 分数 $4/8 + 4/8$ $1 - 3/4$ 小数 $4.2 + 2.9$ $6 + 3.4$ $8.5 - 3.7$ $5 - 1.8$ 40×12 90×64 158×43 532×40			
			39時間 (予備時数2時間)				
後期(2学期制)の時数[標準時数: 86時間]			78時間 (予備時数8時間)				
年間総時数[標準時数: 175時間]			161時間 (予備時数14時間)				

表 3

平成23年度版「ひろがる言葉」3年 国語漢字ドリル年間学習指導計画〈上巻〉

月 時数	単元名	教材名	漢字ドリル動画名	新出漢字	言語活動 との関連	道徳と の関連
4 (17)	げんきに 声を出そう	ひろがることば	00宝物をしょうかいしよう 読み	物・葉・由・事・度・ 笛・感・想		
		白菜 ぎしぎし	01宝物をしょうかいしよう			
		かえるのぴよん	02宝物をしょうかいしよう 書き順無し			
		宝物をしょうかいしよう	03消しゴムころりん1 04消しゴムころりん1 書き順無し		消・転・落・指・両・ 次・動・持	
	思いを そうぞう して 読む	消しゴムころりん	05消しゴムころりん2 06消しゴムころりん2 書き順無し	習・面・様・登・美		
5 (19)		いろいろな手紙を書こう	07いろいろな手紙読み 08いろいろな手紙 09いろいろな手紙 書き順無し	期・区・相・住・所・ 丁・級・業・有		
		漢字の 広場1	10漢字の広場1 11漢字の広場1 書き順無し	漢・部・使・短・発・ 表・緑・式・陽・球		
		めだか	12めだか1 13めだか1書き順無し	泳・身・守・第・集・ 仕・死・温・真・乗		
	じょうほう をもと めて読む	本の仕組みを知ろう	13めだか2読み 14めだか2 15めだか2書き順無し	章・号・調・館・題・ 写・返・役		
		国語辞典の引き方	16国語辞典1 17国語辞典1書き順無し 18国語辞典2 19国語辞典2書き順無し	意・味・練・列・全・ 詩・委・員・荷・始		
				運・問・昭・和		
6 (23)	調べたことの中 からえらんで書く	調べたことをほうこくしよう	20調べたことを読み 21調べたことを… 22調べたことを… 書き順無し	打・客・品・着・向・ 決・都・申・屋		
	漢字の 広場2	送りがな	23漢字の広場2 24漢字の広場2 書き順無し	送・暑・幸・苦・坂・ 階・洋・服		
		お話のすきな場面をくわしく 書こう	25俳句に親しむ 26俳句に親しむ 書き順無し	遊・昔・寒・氷・島・ 者・主・君・庭		
7 (17)	日本語のひび きにふれる	俳句に親しむ	27漢字の広場3読み 28漢字の広場3 29漢字の広場3 書き順無し	終・歯・放・炭・等・ 平・対・開・命		
	漢字の広場3	漢字の音と訓	30学校生活に生かす 31学校生活に生かす 書き順無し	係・整・定・畑・銀・ 反・勝・負		
		漢字の広場4	32漢字の広場4 33漢字の広場4 書き順無し	深・重・岸・葉・酒・ 州・実		
9 (22)	相手や目的 におうじ て話し合う	学校生活に生かす話し合い をしよう				
	言葉を見直す	気持ちをつたえる 話し方・聞き方				
	漢字の広場4	二つの漢字でできた言葉				
10 (25)	ねがいを うけ止め て読む	わすれられないおくりもの	34わすれられない おくりもの読み 35わすれられない おくりもの 書き順無し	助・悲・速・配・礼・ 羊		
		ローマ字1	36わすれられない おくりもの書き順無し			

表 4

平成23年度版「ひろがる言葉」3年 国語漢字ドリル年間学習指導計画〈下巻〉

月 時数	単元名	教材名	漢字ドリル動画名	新出漢字	言語活動 との関連	道徳との 関連	
10 (25)	様子を 思いうか べて	夕日がせなかをおしてくる	00くらしと絵文字1読み	横・進・代・路・駅・ 港・予・注・旅			
		ゆうひのてがみ	01くらしと絵文字1				
	まとまり やつな がりに気 をつける	くらしと絵文字	02くらしと絵文字1 書き順無し				界・安・受・具・育・ 皮・帳・湖
		生き物のとくちょう	03生き物のとくちょう				
		生き物のとくちょうをせつめ いしよう	04生き物のとくちょう 書き順無し				
11 (24)	こそあど言葉	漢字の広場5	05漢字の広場51	柱・倍・童・談・波・ 宿・局・勉			
		漢字の広場5	06漢字の広場51 書き順無し				
		漢字の組み立て	07漢字の広場52読み				
	場面の様 子を想像 して読む	モチモチの木	08漢字の広場52	他・化・秒・医			
		まわりに目を向けて詩に書 こう	09漢字の広場52 書き順無し				
12 (19)	日本の文化 に親しむ	ことわざ・慣用句	10モチモチの木	鼻・起・神・祭・血・ 箱・湯・暗・取			
		漢字の広場6	11モチモチの木 書き順無し				
	漢字の組み立て	12ことわざ慣用句	流・筆・急・根・農・ 宮・飲・商・植				
	本の世 界を広 げて読 む	13ことわざ慣用句 書き順無し					
1 (17)	段落どう しの関係 を考える	のらねこ	14のらねこ読み	待・油・庫・板			
		「読書けいじ板」を作ろう	15のらねこ				
2 (20)	目的に合わせ て発表する	どちらが生たまごでしょうか	16のらねこ 書き順無し	皿・軽・族・県・曲			
		方法をえらんでしようかいし よう	17どちらが生たまご				
	つたえたい ことを 書く	漢字の広場7	18どちらが生たまご 書き順無し	院・病・追・研・究・ 央・鉄			
		漢字が表す意味	19強く心に・・・				
		文の組み立て	20強く心に 書き順無し				
3 (12)	心の通い 合いを読 む	漢字の広場8	21おにたのぼうし読み	豆・投・福・去・捨・ 悪・橋・息			
		同じ読み方の漢字					22おにたのぼうし
	おにたのぼうし	23おにたのぼうし 書き順無し					
	国語の学習 これまで 今 これから	一年間のまとめ					

VII 授業実践

国語科学習指導案

平成 23 年 12 月 16 日（金） 5 校時

浦添市立宮城小学校 3 年 3 組

男子 16 名 女子 16 名 計 32 名

授業者 崎原 修

- 1 教材名 漢字の広場⑤ 漢字の組み立て(一)
- 2 教材の目標
へん、つくりなどの漢字の構成についての知識を得、漢字を正しく読んだり書いたりする。
- 3 教材の評価基準（支・・・支援）

関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
<p>A：漢字の組み立てに興味をもち、いろいろな漢字の組み立てについて調べようとしている。</p> <p>B：漢字の組み立てに興味をもち、漢字を調べようとしている。</p> <p>支：巻末の『漢字を学ぼう』を活用して、同じ「へん」や「つくり」の漢字を調べるよう助言する。</p>	<p>A：同じ「へん」や「つくり」の漢字をいくつも集め、それぞれの漢字に共通する意味についても考えている。</p> <p>B：同じ「へん」や「つくり」の漢字を集めている。</p> <p>支：同じ「へん」や「つくり」をもつ漢字の意味について考えるよう助言する。</p>

4 この教材でおさえる指導事項

○第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

伝国(1)ウ(イ)

○漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

伝国(1)ウ(ウ)

5 教材について

(1) 教材観

これまでに児童は、漢字の読み・書きをはじめ、意味や字形、筆順や画数、送り仮名、音と訓などについて学習してきている。3年生からは、学年配当漢字も多くなり、ただ覚えるのではなく、意味を考えて覚えることも重要となってきた。

そこで本教材では、新出漢字や既習漢字を「組み立て」という体系に位置づけ整理することをとおして、漢字の構成についての初歩的な理解を図りたい。「へん・つくり」などの漢字の組み立てについて知り、共通する部分をもつ漢字が、意味の上でも関連をもつ場

合が多いことを学習する。漢字を楽しく正しく覚えるための手段として、本教材の内容は、3学年以降の多くの新出漢字を楽しく学んでいくための大切な知識だと考える。漢字の特徴をとらえ、漢字を効率的に正しく覚える方法を工夫することをねらっていきたい。小学校学習漢字の大半が複合の文字で、三年配当漢字ともなるとほとんどが複合の文字となる。そこで漢字の組み立てに着目し、いくつかの漢字に共通する部分のあることなどに気づくようにし、これまで以上に漢字学習に興味や関心を示すことになってほしい。この教材は、漢字を部分に分けたり、成り立ちを絵から変化させていくなど、フラッシュ型動画の活用にも適していると考えられる。

(2) 児童観

毎日の漢字ミニテストに関しては、「好き」「まあまあ好き」が87%と、国語の学習の中でも関心・意欲が高いという結果が出ている。漢字ミニテストを行って、「漢字を覚えられたようになった」50%「まあまあ覚えられたようになった」50%で、全児童が漢字ミニテストの効果を感じている。国語の授業中の発表も自分から進んで挙手し、みんなの前で発表できる児童が多い。発表しない子でも意欲的に国語の学習に参加している。

児童は、毎日国語のミニテストを行っているので、漢字をいろいろな視点から見ることを楽しむことができるだろうと思われる。しかし、漢字を苦手としている児童も数人いるので、それらの児童への指導方法を工夫していききたい。

(3) 指導観

漢字力は、国語の基礎基本となる語句、語彙力をつくり上げるものであり、すべての学習の基礎・基本となるものである。学習する漢字の量が増えてきた3学年の児童が、漢字の組み立てや成り立ちにふれることは、これからの漢字学習にとってもとても重要なことである。この教材は、フラッシュ型動画を効果的に活用するのに適していると思われるので、児童が興味をもって漢字に取り組み、その知識を豊かにし、漢字が使いこなせるように、学習展開を計画したり、工夫したい。

6 指導計画

次	時	学 習 活 動	評 価 基 準
第一次	1 (本時)	○へんなどの漢字の構成について理解し、漢字を正しく書いたりする。	関A：漢字の組み立てに興味をもち、いろいろな漢字の組み立てについて調べようとしている。 関B：漢字の組み立てに興味をもち、漢字を調べようとしている。
	2	○つくりなどの漢字の構成について理解し、漢字を正しく書いたりする。	言A：同じ「へん」や「つくり」の漢字をいくつも集め、それぞれの漢字に共通する意味についても考えている。 言B：同じ「へん」や「つくり」の漢字を集めている。

7 本時の指導

(1) 本時のねらい

へんなどの漢字の構成について理解し、漢字を正しく読んだり書いたりする。

(2) 授業仮説

授業の中で、フラッシュ型動画や大型液晶テレビを効果的に活用すれば、児童の漢字に対する興味関心が高まり、意欲的に学習するであろう。

(3) 準備

ワークシート、漢字部品カード、フラッシュ型動画

(4) 本時の展開

過程	学習活動と主な発問	教師の支援活動	評価	準備資料
導入 10分	<p>1 漢字ミニテストをする。</p> <p>2 課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">漢字はどのようにしてできているのかしらべよう。</div> <p>・漢字が二つに分けられることを知る。</p>	<p>・フラッシュ型動画に集中するよう指示する。</p> <p>・「洋」「細」という漢字をはさみで二つに切り分けることでイメージしやすくする。</p>	<p>・集中して漢字ミニテストに取り組んでいる。(観察)(関・意・態)</p>	<p>フラッシュ型動画 「00くらしと絵文字1読み」</p>
展開 30分	<p>3 漢字部品カードを使って漢字を作る。</p> <p>4 作った漢字を発表する。</p> <p>5 漢字の左側の部分のことを「へん」ということ知る。 ・「きへん」「にんべん」「いとへん」といったへんの名前、成り立ち、意味について知る。</p> <p>・フラッシュ型動画を使って</p>	<p>・封筒に入った漢字部品カードを用意し、それを使って作成させワークシートに記録させる。</p> <p>・掲示用の漢字部品カードを黒板に貼り付けて発表させる。</p> <p>・漢字成り立ち動画を使って、イメージを広げる。</p> <p>・ワークシートにへんの定義「漢字の左がわの部分『へん』という。」を書かせる。</p> <p>・最初は全員で音読させ、な</p>	<p>・漢字の組み立てに興味をもち、漢字を調べようとしていたり、積極的に漢字を作成したり、発表しようとしている。(観察)(関・意・態)</p> <p>・同じ「へん」の漢字をいくつも集め、それぞれの漢字に共通する意味についても考えている。(観察・発表・ワークシート)(言語、関・意・態)</p>	<p>漢字カード フラッシュ型動画 「01へん成り立ち」 「02部首アニメへん土子石日火木」 ワーク</p>

	へんの名前を覚える。	来てきたら個人で挑戦させる。 ・部首、漢字成り立ちクイズをさせる。(時間があれば)	シート フラッシュ型 動画 「へんレベル1」～ 「へんレベル9」
まとめ5分	8 本時のまとめをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">漢字の左がわの部分を「へん」という。</div>	

(5) 評価

へんなどの漢字の構成について理解し、漢字を正しく読んだり書いたりすることができたか。

(6) 板書計画

へんの名前

①(きへん) 木

②(ごんべん) 言

③(にんべん) 人

④(さんずい) 水

⑤(いとへん) 糸

⑥(つちへん) 土

⑦(てへん) 扌

活 仕 林

泳 記 校

語 作 村

計 海 体

めあて

漢字の組み立て(一)

漢字はどのようにしてできているのかしらべよう。

漢字の左がわの部分のことを「へん」という。

漢字の組み立て(二) 三年()組 名前()

めあて

漢字はどのようにしてできているのかしらべよう。

一、漢字には、上下、左右など、二つの部分に分けられるものがあります。へんとは何でしょう。

へん

漢字の左がわの部分のことを「へん」という。

二、漢字パズルから見つけた漢字を書きましよう。

(わからない時は国語の本 p 116 ～ p 121 をさんこうにしましよう)

⑪ 活	⑥ 仕	① 林
⑫ 泳	⑦ 記	② 校
⑬	⑧ 語	③ 村
⑭	⑨ 計	④ 作
⑮	⑩ 海	⑤ 体

三、() の中にへんの名前を書きましよう。

① () きへん () ② () ごんべん () ③ () にんべん ()

木

言

イ

④ () さんずい () ⑤ () いとへん () ⑥ () つちへん ()

ン

糸

土

⑦ () てへん ()

才

VIII 研究の考察

1 作業仮説(1)の検証

フラッシュ型動画(漢字ドリル・計算ドリル)を作成し効果的に活用すれば、児童の興味・関心が高まり、意欲的に学習するであろう。

(1) 毎日の授業の中でのフラッシュ型動画の効果的活用

① 手立て

計画的な年間指導計画を作成し、国語と算数の毎日の授業の中で、漢字ドリル動画、計算ドリル動画を活用した。

② 結果

毎日の漢字ドリル、計算ドリルをいやがることなく、意欲的に継続して取り組む姿が見られた。(図16)



図16 児童の様子

児童の感想やアンケートから、興味・関心が高まっていることが確認できた。(図17, 18, 19, 20, 表3)

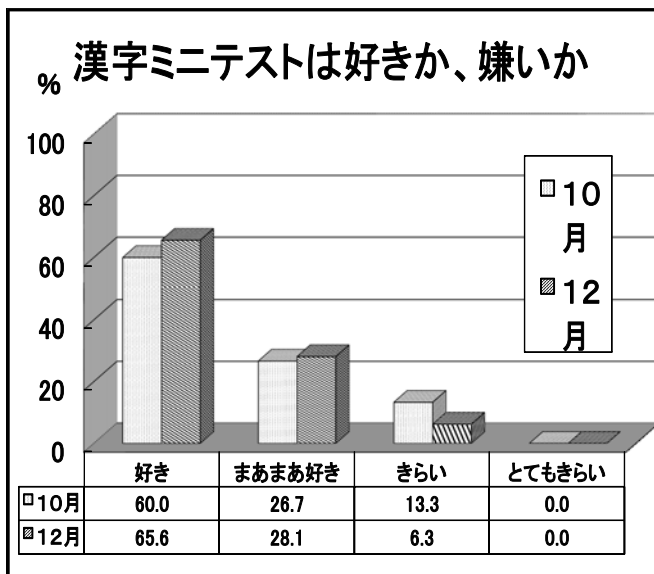


図17 漢字ミニテストに関する児童アンケート①

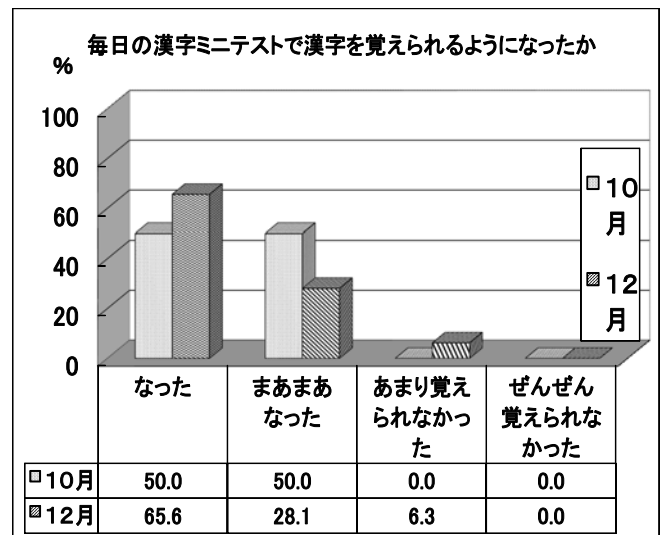


図18 漢字ミニテストに関する児童アンケート②

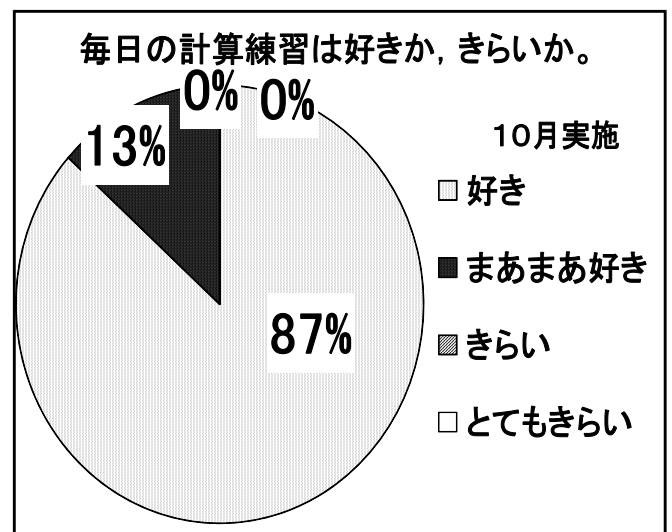


図19 計算練習に関する児童アンケート①

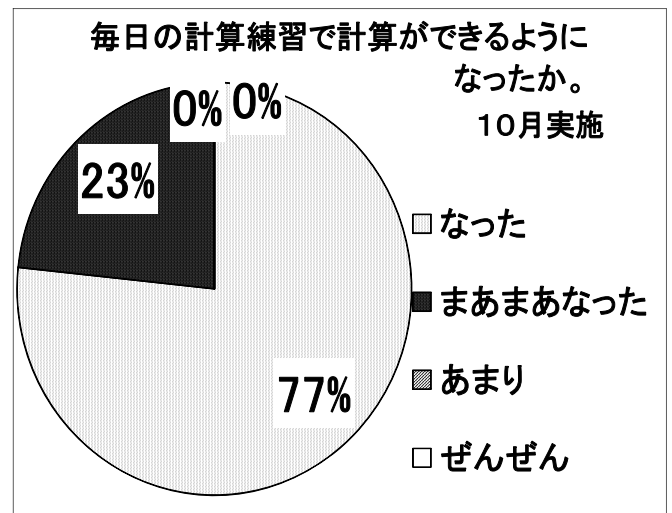


図20 計算練習に関する児童アンケート②

表3 児童の感想

① 漢字ミニテストが好きな理由
A: 漢字を覚えられるから。(60%)

- B: 楽しいから。(13%)
- C: 漢字の勉強が好きだから。(10%)
 - ② 漢字ミニテストが嫌いな理由
- A: 漢字が苦手だから。(4%)
 - ③ 計算テストが好きな理由
- A: 計算ができるようになるから。(50%)
- B: 楽しいから。(43%)
- C: 速くやるコツがわかるから。(3%)
 - ④ 計算テストが嫌いな理由
- A: 計算が苦手だから。(3%)

③ 考察

10月と12月に行った児童のアンケート結果から、漢字ミニテストが「好き」・「まあまあ好き」と答えた児童が合わせて10月87%、12月94%になっていることがわかる。(図17, 図18)10月よりも12月が好きな子が増えているのは継続することによって、漢字を覚える楽しさを実感できてきたからだと考える。児童の感想からも漢字ミニテストが好きな理由として「漢字が覚えられるから」(表3)と60%が答えているので、そのことが伺える。また、4月当初漢字が苦手だった児童も12月のまとめのテストでその伸びを確かめることができた。計算ドリルもほとんどの児童が「好き」・「できるようになった」と答えている。(図19, 図20)児童の苦手意識を克服させ「やればできる」という実感を持たせることができたと思う。これらのことから、作業仮説(1)の有効性が確かめられたと考える。

(2) フラッシュ型動画の良さを生かした授業展開

① 手立て

検証授業の中の偏の種類を覚える場面で、レベルアップしていくフラッシュ型動画を活用し、児童の興味・関心を高める工夫を行った。

② 結果

レベルアップしていく問題に対し、児童は積極的に参加していた。(図21)



図21 積極的な児童の様子

授業後のアンケートや感想の中に、「楽しかった。」「わかりやすかった。」「絵や写真があって覚えやすかった。」などフラッシュ型動画の有効性を確かめられる言葉が多かった。(図22, 図23)

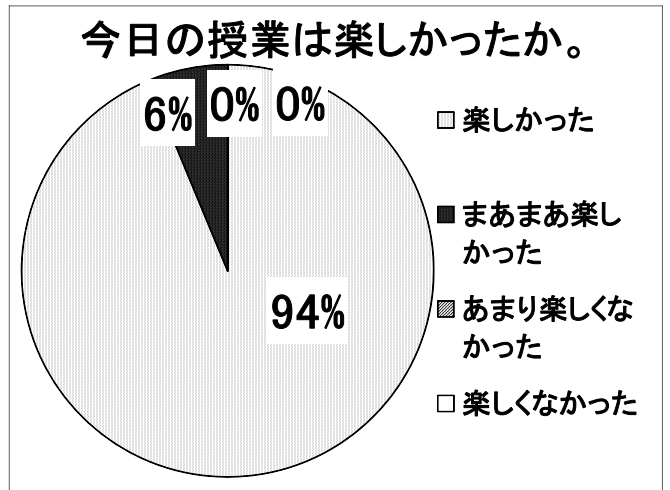


図22 検証授業後の児童アンケート①

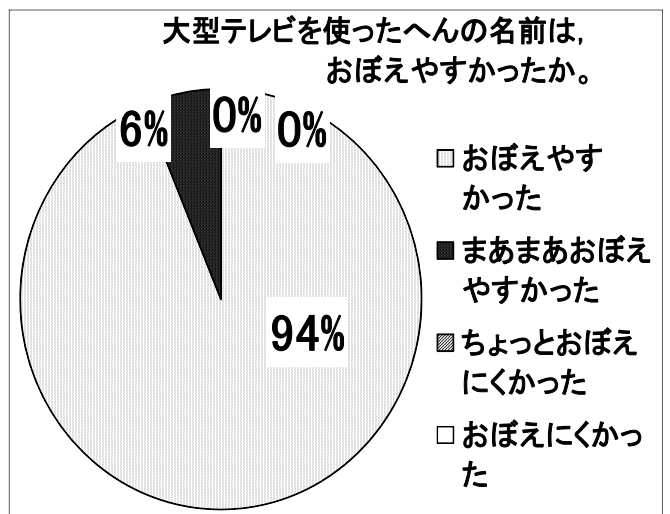


図23 検証授業後の児童アンケート②

③ 考察

検証授業後のアンケート(図22, 図23)から、

本時の授業が楽しかったという児童が94%、フラッシュ型動画を使った暗記法が覚えやすかったという児童が94%という結果が出た。授業後の研究会でも「デジタルとアナログのバランスがとても良かった。」「いい場面でフラッシュ型動画を活用できていた。」「レベルが少しずつ上がっていたので、とても良かった。授業の流れ全体でもそれが感じられた。」「フラッシュ型動画のよさを検証できたと思う。」という評価があって、作業仮説(1)の有効性が確かめられた。

また、「ICTの使いどころが重要である。ICTは授業の主ではなくサブである。」「アナログとのコンビネーションが重要。」という評価もあった。今回の検証授業で、フラッシュ型動画の長所と短所をしっかりと見極めて、授業の中で効果的に活用することの重要性を感じた。これからの研究課題としてとらえたい。

2 作業仮説(2)の検証

学習指導において、フラッシュ型動画を継続的に活用すれば、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるであろう。

(1) フラッシュ型動画の継続的活用

① 手立て

計画的な年間指導計画を作成し、国語と算数の毎日の授業の中で、漢字ドリル動画、計算ドリル動画を活用し、児童の基礎的・基本的な知識・技能定着を図った。

② 結果

12月までの漢字まとめテスト(96問 図24)、計算まとめテスト(26問 図25)を行った結果、平均正答率がすべて90%を上回った。

県到達度テストの基礎的・基本的な計算においても、10問中6問が学年・市・県平均を上回ることができた。(図26)

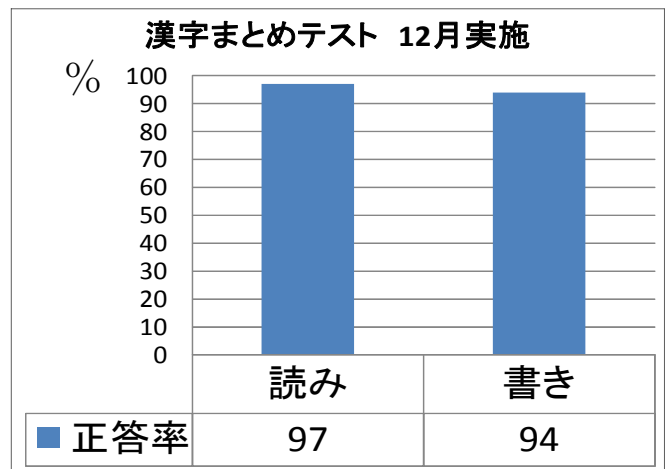


図24 漢字まとめテストの結果

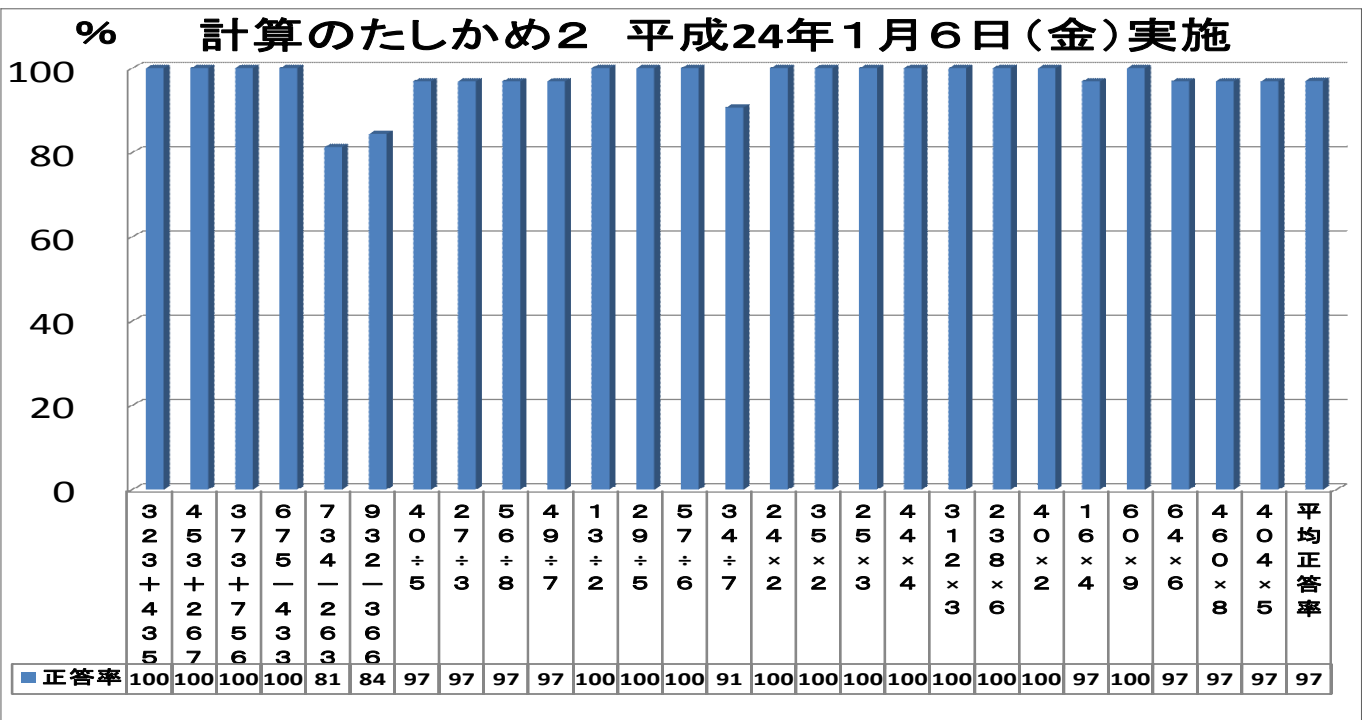


図25 計算まとめテストの結果

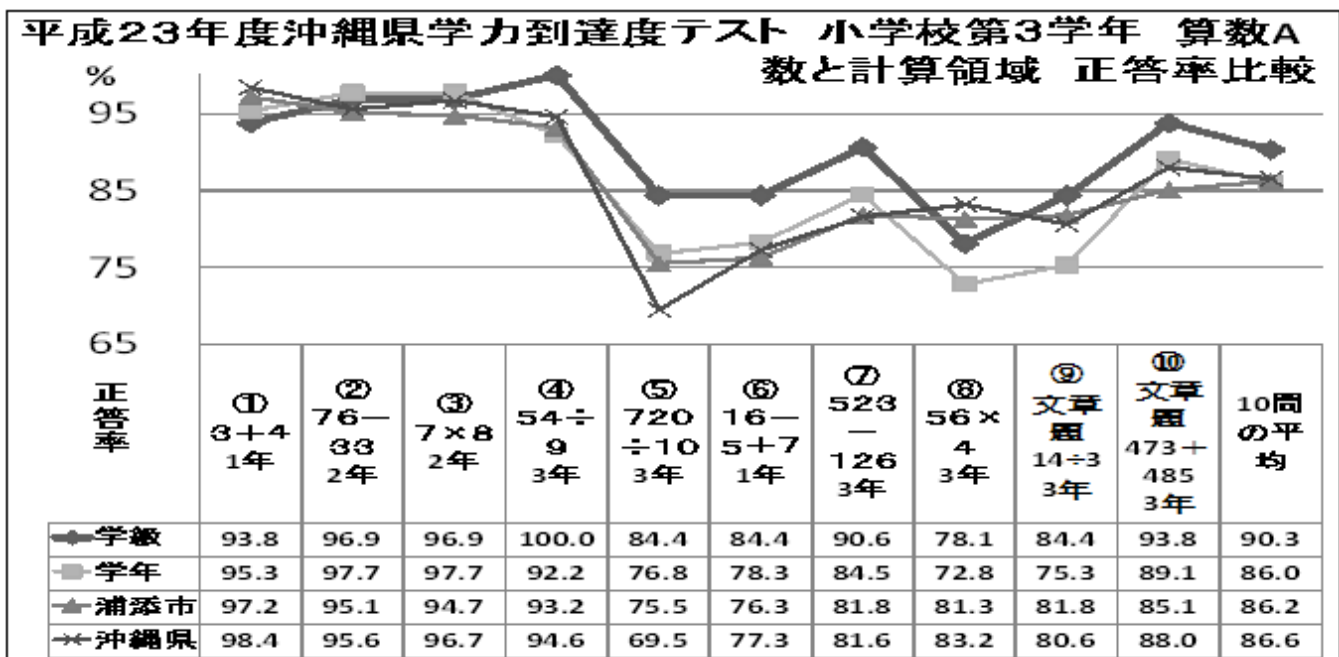


図26 県到達度テスト比較

③ 考察

漢字まとめテストの読み、書き(図24)、計算のたしかめ(図25)の正答率が90%を超えていて、基礎的・基本的な知識・技能定着を図ることができたと考え。計算については12月に同様のテストを行ったが、正答率95%と長期にわたる計算力の定着が伺える。さらに、1月が97%と上昇が見られるので継続的に繰り返すことの良さを確かめることができた。

また、県学力到達度テストでも計算問題の10問中6問は学年・市・県平均を上回ることができた。(図26)以上のことから作業仮説(2)は有効であったと考える。しかし、算数A問題全体の学級平均は県・市平均をわずかに下回った。(-0.1%)正答率の低い問題を分析してみると、既習事項の定着が弱かったということがわかった。今後の課題として、研究していく必要があると感じた。

3 作業仮説(3)の検証

作成したフラッシュ型動画を活用しやすい素材としてまとめれば、学校全体として取り組むことができるであろう。

(1) 学校全体での取り組みに向けて

① 手立て

全学年漢字ドリル年間指導計画作成、メディアプレイヤーの活用マニュアル作成、使いやすくする工夫、素材の整理を行い、職員会議で提案し校内研修を行った。

② 結果

職員へのアンケートの結果から、漢字ドリル動画は「児童の関心・意欲を高める。」「漢字力を高める。」「これからも継続して活用したい。」(図27, 28, 29, 30, 表4)という意見が多かった。また、改善してほしいという要望もあり、より良い漢字ドリル動画の作成ができた。

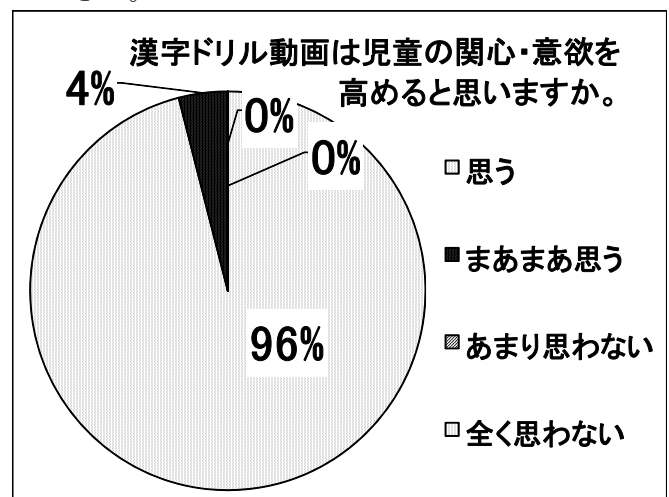


図27 職員へのアンケート①

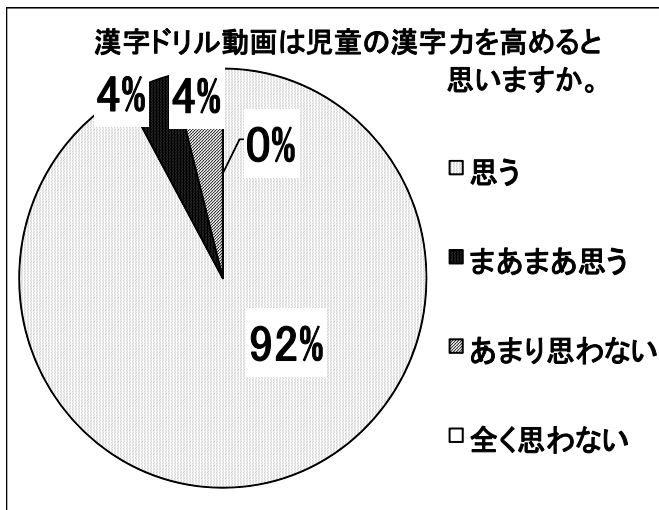


図28 職員へのアンケート②

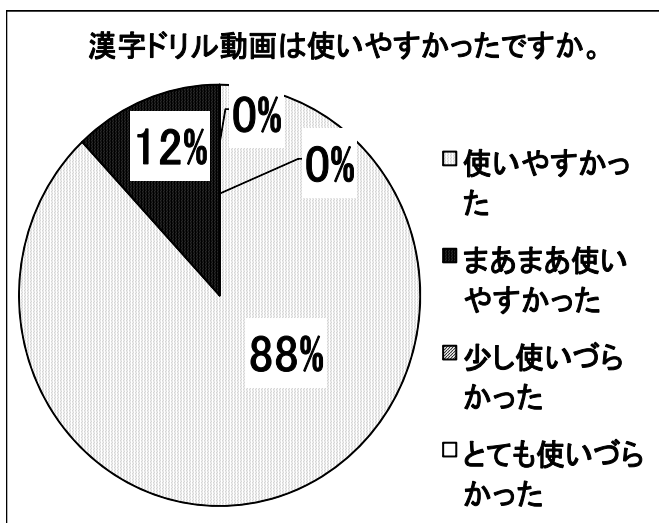


図29 職員へのアンケート③

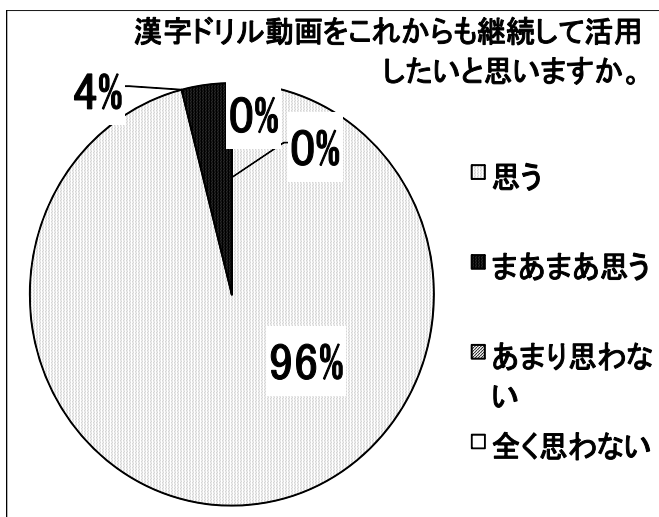


図30 職員へのアンケート④

表4 職員からの感想など

○ 書き順は定着させるのに苦労していたが、これがあれば自主学习できる。助かりました。

- 漢字テストをしたときの結果に差があり、書き順も正しく習得していました。
- 動画で行うと、時間が決まっているので、授業の時間配分も気にせず行えるので、活用して良かったです。
- 毎日活用しています。子どもたちから進んで取り組んでいます。漢字力もみるみる身につく、全員が100点を取れるようになりました。子どもたちが達成感に満ちています。ありがとうございます。
- 今まで漢字の苦手だった児童においては、漢字力があがり、漢字に対する抵抗感が無くなった。毎日継続することに意味があると思った。
- 本校は漢字力が弱いので、全学年統一して指導するととても良いと思う。
- 保護者からも効果があると言われました。漢字まとめテストも平均点が上がったと思います。まとめテストの動画もあると助かります。

③ 考察

「漢字ドリル動画は児童の関心・意欲を高めると思う」96%、「漢字力を高めると思う」92%、「使いやすい」88%、「継続して活用したい」96% (図27, 28, 29, 30) と作業仮説(3)の有効性が確かめられる結果が出たと考える。特に、継続して活用したいという職員が多かったのは本研究の大きな成果である。大型テレビを積極的に活用してなかった職員にもフラッシュ型動画を広めることができた。職員からの感想(表4)からも、漢字ドリル動画の有効性が確認できた。

今回特に重要だと感じたのは、職員への積極的なはたらきかけと校内研修の必要性である。どんなに、良い素材を提供してもその活用方法や、学校全体での取り組み方法を職員会議などで提案し、リーダーシップを発揮しなければ、このような成果を得ることができなかったと考える。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) フラッシュ型動画(漢字ドリル・計算ドリル)を作成し効果的に活用することで、漢字や計算に対する児童の興味・関心が高まり、意欲的に学習に取り組ませることができた。
- (2) 学習指導の中で、フラッシュ型動画の継続的な活用を図ることによって、児童の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。
- (3) 作成したフラッシュ型動画を活用しやすい素材としてまとめ、校内研修を行うことによって、漢字ドリル動画を学校全体として取り組むことができた。

2 課題

- (1) 計算ドリル問題の配列の仕方、児童が理解しやすいヒントシートの工夫
- (2) ICT活用場面の研究
- (3) 思考力・判断力・表現力を育成するためのフラッシュ型動画の研究

おわりに

今回「毎日コツコツ」をイメージして実践を進めてきました。その中から得たものは小さな事を毎日積み上げれば、どんな子でもできるようにな

るということでした。それが一番の収穫です。もう1つは、「褒める」ことの重要性に気づいたことです。毎日コツコツを子どもたちに続けさせるには、褒め続けることがとても効果的でした。

また、本研究を進めるに当たって意識していたのは、ひとりよがりの研究ではなく宮城小学校全体にとっても役に立つものにしたという気持ちでした。15年前の県立教育センターでの研究は、自己満足の世界だったような気がします。毎日なんとなく実践していたことを深く追及することの厳しさと、楽しさを実感することができた半年間でした。現場へ還元できた研究なのかどうかは、まだ自信はないのですが、ほんの少しでも役に立てればと願います。

研修期間中、多くのご指導助言をいただいた知名道博所長、島袋優係長、山里崇指導主事、浦添市教育委員会の先生方、そして、所内の職員の皆様へ深く感謝申し上げます。また、いつも温かく励まし指導助言してくださいました港川小学校教科指導員池原鉄先生へ深く御礼申し上げます。

最後に、本研究の機会を与え支援してくださいました宮城小学校、銘苅健校長をはじめ、共同実践研究に協力してくださいました先生方、半年間の研究を共に励んだ研究員の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

【主な参考・引用文献】

・小学校指導要領	文部科学省	2008年
・フラッシュ型教材のススメ	高橋純 堀田龍也	旺文社 2011年
・新だれでもできる学力づくり3年	岸本裕史 藤原義隆	子どもの未来社 2004年
・「読み・書き・計算」で学力再生	陰山英男	小学館 2002年
・教室のICT環境	堀田龍也 野中陽一	三省堂 2008年
・すべての子どもがわかる授業づくり	高橋純 堀田龍也	高陵社 2009年
・あかねこ漢字スキル 1～6年	東京技術研究所	教育出版 2011年
・はなまる漢字スキル 3年	庄司典子	教育同人社 2011年
・あかねこ計算スキル 1～6年	東京技術研究所	光村教育図書 2011年